

夏の甲子園佐賀県予選が開幕しました。 文責 学校長



～雨天のため1回戦(対唐津青翔)の試合は本日に順延へ～

1 野球部は本日、夏の1勝をかけて唐津青翔と対戦します。

夏の甲子園大会佐賀県予選が7月10日(土)に開幕しました。本校野球部は雨で順延となった1回戦が昨日(7/11)の第3試合で実施の予定でしたが、第2試合の途中に2度にわたるどしゃ降りの雨に見舞われ、再び順延となり、本日(7/12)の第2試合に順延となりました。仕切り直しとなりましたが、まずは夏の1勝をあげて勝利の校歌を声高らかに歌えることを期待しています。野球部の諸君、まずは初戦突破を目指して頑張れ!!



2 修学旅行(3年代替プラン)を行いました。

先週の月(7/5)・火(7/6)曜日に、一泊二日の日程で、3年生の修学旅行(代替プラン)を実施しました。1日目は新阿蘇大橋や熊本城・城彩苑を見学し、2日目は三井グリーンランドで様々なアトラクションを楽しみました。武雄を出発時は小雨模様の天気でしたが、その後奇跡的に天候が回復し、一泊二日の小旅行を存分に楽しむことができました。3年生は持っている(運)ようです。



3 クラスマッチを行いました。

7月7日(水)にクラスマッチを実施しました。南体育館・中体育館・白岩体育館に分かれて、3学年ともバレーボール競技で競いました。どの会場も**笑顔と笑いと歓声に包まれる和やかな雰囲気**で久しぶりに爽やかな汗を流しました。3年生は修学旅行の翌日でしたが、**高校生活最後のクラスマッチ**を存分に楽しみました。



4 今週の名言・・・漫画家・手塚治虫の言葉です。

人を信じよ。しかし、その百倍も自らを信じよ。時によっては、信じきっていた人々に裏切られる事もある。そんな時、自分自身が強い盾であり、味方であることが、絶望を克服できる唯一の道なのだ。

【解説】漫画家・手塚治虫さんの言葉です。日本の「漫画の神様」とも言われる手塚治虫さんですが、その人生は多くの苦しみとの隣りあわせでした。ノイローゼになり精神病院に通ったこともあるほどです。多くの人に裏切られ、また批判をされた人生でもありました。しかし、この言葉を**座右の銘**とされていたようで信じた人に裏切られても、最後まで自分自身の事は信じ続け、その結果、誰も成しえなかったことを次々と実現されています。どんなに信じた人でも、裏切られる事はあります。他人の気持ちを定める事はできません。しかし、自分自身の気持ちだけは自分で定める事ができます。最後まであなたを信じてくれる存在、それはあなた自身です。芸人の**松本人志**さんも言っています。「**自分が売れるかどうかは分からなかった。しかし、自分が面白いという事だけは信じていた。**」(参考:「10秒で読める名言・格言集」より)

【手塚治虫について】兵庫県宝塚市出身。大阪帝国大学附属医学専門部を卒業、医師免許を取得、のち医学博士となる。在学中に4コマ漫画『マアチャンの日記帳』で漫画家としてデビュー。1947年、『新宝島』がベストセラーとなり、大阪に赤本ブームを引き起こす。1950年より漫画雑誌に登場、『鉄腕アトム』『ジャングル大帝』『リボンの騎士』といったヒット作を次々と手がけた。1963年、自作をもとに日本初となる30分枠のテレビアニメシリーズ『鉄腕アトム』を制作、現代につながる日本のテレビアニメ制作に多大な影響を及ぼした。1970年代には『ブラック・ジャック』『三つ目がとおる』『ブツダ』などのヒット作を発表。また晩年にも『陽だまりの樹』『アドルフに告ぐ』など青年漫画においても傑作を生み出す。デビューから1989年の死去まで第一線で作品を発表し続け、存命中から「マンガの神様」と評された。**藤子不二雄、石ノ森章太郎、赤塚不二夫、横山光輝、水野英子、萩尾望都**などをはじめ数多くの人間が手塚に影響を受け、接触し漫画家を志した (参考:「ウィキペディア」より)

5 今週のお故事成語・・・「下問を恥じず」【問題】英語で表現すると?

自分より年齢・地位の低い者に対して、物事を尋ねたり、教えを乞うことを恥ずかしいと思わないこと。

(出典:『論語』公治長第五より)

【由来】原文は「子貢問ひて曰いはく、『孔子は何なにを以て之を文と謂ふや。』子曰はく、『敏にして学を好み、**下問を恥じず**。是を以て之を文と謂ふなり。』」(子貢という人が孔子に、「衛の国の儀式を行う芸人のおくり名に文という字がありますが、これはなぜなのですか」と聞くと、孔子は「彼は頭がよく学問が好きで 目下の者に質問することを恥ずかしいと思わなかったら」と答えたようです。)このエピソードから生まれた言葉です。

6 どこがおかしい日本語(その15)・・・どういう意味かわかりますか?

① 枯れ木も山の賑わい ② 気が置けない人 ③ 小春日和 ④ 情けは人のためならず ⑤ 叔父と伯父の違いは?

7 今週の一冊…伊吹有喜の『犬がいた季節』(双葉社)です。

ある日、高校に迷い込んだ子犬。生徒と学校生活を送ってゆくなかで、その瞳に映ったものとは一。最後の共通一次。自分の全力をぶつけようと決心する。18の本気。鈴鹿でアイルトン・セナの激走に心通わせる二人。18の友情。阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件を通し、進路の舵を切る。18の決意。スピッツ「スカーレット」を胸に、新たな世界へ。18の出発。ノストラダムスの大予言。世界が滅亡するなら、先生はどうする?18の恋…12年間、高校で暮らした犬、コーシローが触れた18歳の想い。昭和から平成、そして令和へ。いつの時代も変わらぬ青春のきらめきや切なさを描いた、著者最高傑作!

(参考:本書裏表紙説明より)

【解説】本屋大賞第3位に輝いた作品です。作者伊吹有喜氏の出身地三重県のとある高校が舞台となっています。三重県と言えば、私の父の実家で小さい頃から夏休みに何度も過ごしたことがある第二の故郷で、この話に出てくる町や鈴鹿サーキットの様子は思い出として脳裏に刻まれていますので、まるで自分も小説の中にいるかのごとき錯覚を感じつつ読み耽りました。小説は、1988年夏の終わりのある日、高校に迷い込んだ一匹の白い子犬を巡る高校生たちの青春が描かれています。「コーシロー」と名付けられ、以来、生徒とともに学校生活を送っていきます。初年度に卒業していった、ある優しい少女の面影をずっと胸に秘めながら…。昭和から平成、そして令和へと続く時代を背景に、コーシローが見つめ続けた18歳の逡巡や決意を、瑞々しく描く青春小説の傑作です。図書館にあります。是非一読を。

【作者・伊吹 有喜について】1969年三重県生まれ。中央大学法学部卒。2008年『風待ちのひと』でポプラ社小説大賞特別賞を受賞デビュー。他の著書に、ドラマ化・映画化された『四十九日のレンピ』や『ミッドナイト・バス』、全国有志の書店員による「乙女の友大賞」を受賞した『彼方の友へ』など。(参考:本書表紙裏の著者紹介文より)

8 世界遺産を巡る(日本編)…第15回は小笠原諸島(世界遺産登録年:2011年)

【解説】世界自然遺産に登録された小笠原諸島は、東京都小笠原村に属し、都心から南へ約1,000km離れた太平洋上にある大小30余りの島々からなります。一般住民が住んでいるのは父島と母島のみで、硫黄島、沖ノ鳥島など4島を除く大半が国立公園に指定されています。海洋プレートの沈み込みにより、約4800万年前から数百万年にわたって形成された海洋島で、一度も大陸と地続きになったことがありません。そのため、島にたどり着いた生物は環境に合わせ独自の進化を遂げ、小笠原諸島にしかいない数多くの固有種が、稀少な生態系を形成しています。固有種の中でも特に陸産貝類(カタツムリの仲間)は、90%以上が固有種で、カタマイマイ属は樹上性、地上性など住む場所によって形態変化が見られ、今なお進化の過程を見ることができます。また、乾燥した父島には乾性低木林、湿潤な母島には湿性高木林など、環境に適応した植物が繁茂。アカガシラカラスバト、メグロなど、絶滅危惧種の鳥類の生息地にもなっています。19世紀まで無人島だったことが幸いし保たれてきた稀少な生態系も、人間が持ち込んだネコやヤギ、グリーンアノール(トカゲ)などの生物により、固有種を絶滅の危機に追い込んでいます。現在、外来生物の駆除や新たな侵入を防ぐなど地道な努力が続けられていますが、「進化の実験場」と呼ばれる希有な自然を次代に残していくために、さらなる英知の結集が求められています。(参考:阪急交通社「日本の世界遺産一覧」より)



9 街角グルメを訪ねて…第15回は佐賀市「サンドーレ」(佐賀市大和町大字尼寺2885-4)

前回紹介したサンドイッチ店のように断面のインスタ映えを狙ったサンドイッチ店が県内にも増えましたが、今回は古典的なサンドイッチ店を紹介します。佐賀大和のイオンモールの裏通りにいつ見ても行列ができていくサンドイッチ専門の店です。惣菜系サンドイッチ(メンチカツ・エビカツ・チキンカツ・チキンロール・エビロール・ハムエッグ・タマゴ・ツナ・サラダ・ヤサイ・コールスロー・ヤキソバロールなど)からフルーツサンド系(イチゴ・フルーツ)までその種類の多さに圧倒されます。リーズナブルな値段でコンビニのサンドイッチよりもはるかに安くコスパは高いと思います。パンはヤマザキのサンドイッチ専用のパンを特注して使っているようです。この日はヤマザキの白い皿を無料でプレゼントしてもらいました。(シールを集めてもらえるやつです。)ゆめタウン佐賀でも買えますが、本店よりも値段は高めに設定してあるようです。お昼時は行列に並ぶ覚悟が必要ですので、午前中早い時間がお薦めです。



10 保護者の皆様へ…「学校評価アンケート」にご協力ください。締切は19日です。

【英語】◇ One should not be ashamed to learn from one's inferiors. ◇ Don't be ashamed of the question

【正解】①つまらないものでもないよりはましであるということ。②気楽に付き合える人 ③初冬の頃の、寒さがゆるみ春を思わせるようなポカポカした陽気のことを指す。④人に情けをかけておくと自分に良い報いが返ってくるという意味。⑤両親よりも年上のおじさん(父母の兄)が「伯父」、年下のおじさん(父母の弟)が「叔父」と書きわける。【解説】①自分を卑下して使うのは良いが、他人に対して使うと失礼にあたる。くれぐれも「枯れ木も山の賑わい」といいますので、先生にも是非出席していただきたいとの招待状を送らないように。②「～ない」と否定的な表現が入っているために、「気が許せない人」「付き合いにくい人」「油断できない人」と間違えて理解している人が多い。「気が置けない」とは「気づかい」が不要の人という意味で「気を許すことのできる親しい人」が正しい。③「春のうららかな陽気の日」を指すと勘違いしている人が多い。初冬の季節を指す言葉です。④間違えて「情けをかけるとその人を甘やかすことになってその人のためにはならない」と理解している人が多い。約5割の人が誤解しています。この言葉はこの後に「巡り巡って己が身のため」と続く言葉として覚えておくと間違わないですよ。⑤「伯母」「叔母」も同様。両親の姉が「伯母」。両親の妹が「叔母」となる。もともと兄弟の順番を表す語として「伯・仲・叔・季」という順番で使われたことによります。「実力が伯仲する」もここからきています。